令和４年度

学校評価

甲府市立千代田小学校

１　基本方針

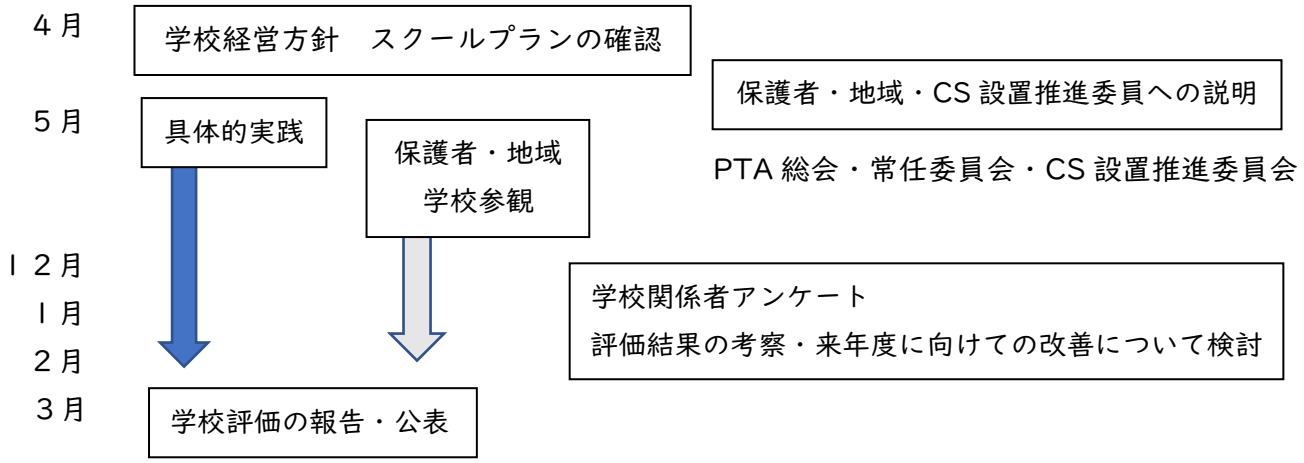
今年度当初に校長より「令和４年度学校経営の方針」（スクールプラン）として示された重点事項をもとに、評価項目・具体的方策・評価指標を設定し、教職員による 「自己評価」を行うとともに、 児童・保護者にもアンケートを実施し、学校運営の改善・教育水準の向上の資料とする。

また、自己評価の結果について「学校関係者評価委員会」により評価することをとおして、客観性・透明性を高め、学校・保護者・地域が連携して学校運営の改善・教育水準の向上にあたることを目指す。

２　評価項目とアンケートの対象について

令和４年度学校経営の方針に示されている重点項目をふまえ評価項目を設定した。なお、児童・保護者アンケートについては、回答可能な項目とし、それぞれ１０項目・１２項目とした。アンケートは肯定的回答と否定的回答が明確になるよう、各項目について４段階評価で実施した。また、アンケート対象は全児童・全保護者(家庭数)とした。

３　日程



４　評価結果の分析・活用

「非常に思う」と「思う」と合わせた回答を「肯定的回答」、「やや思わない」「思わない」を合わせた回答が９０％を肥えた項目に関しては、「否定的回答」として判断し、肯定的評価が８０％を下回った項目については具体的な改善策を検討していくこととする。また、分析や改善策については「ＰＴＡ常任委員会」及び「学校関係者評価委員会(CS 設置推進委員会)」からの意見聴取を経て検討後、ホームページ等で公表する。

5　質問項目および評価結果

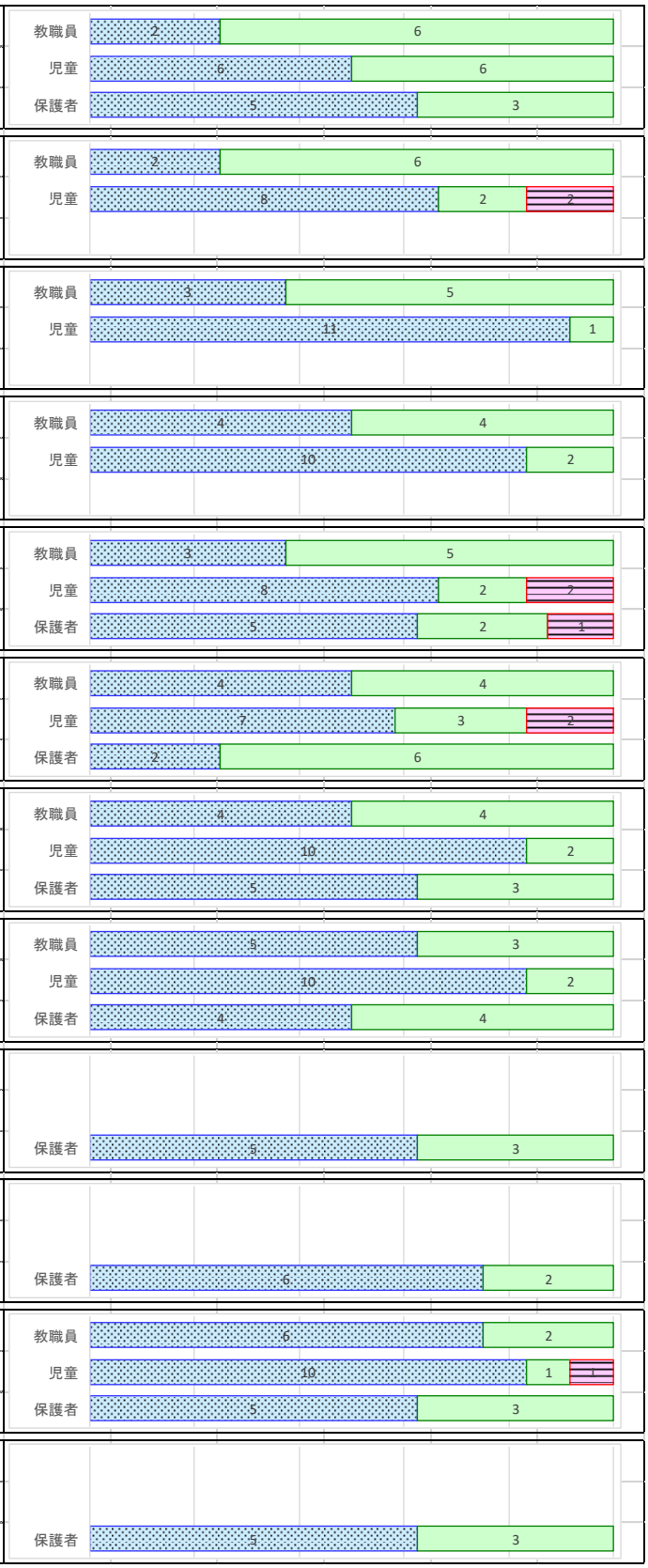
学校教育目標 「心豊かでたくましく、自ら学び、自ら考え、実践する子どもの育成」

	領域	重点目標	番号	評価項目	具体的方策	評価指標	教師アンケート項目	児童アンケート項目	保護者アンケート項目
よく考え進んで学習する子ども	学習指導の充実	学習意欲を高め、学ぶことの楽しさが実感できるような授業づくりに努める。	1	ユニバーサルデザインの視点をふまえたわかる授業	明確な目標を設定し、達成感のあるわかる授業・楽しい授業を行う。	ねらいを明確にし、目標達成のための手立てを仕組んだか。	甲府スタイルの実践を通し、わかる授業・楽しい授業を行っている。	授業は楽しくわかりやすい。	教師は、楽しくわかりやすい授業を行っている。
			2	言語活動の充実（主体的・対話的で深い学び）	各教科、領域などで言語活動を充実した取り組みを行う。	各教科の学習活動において、言語活動を取り入れた指導を行うように努めているか。	話し合ったり、考えを書いたりする活動を取り入れた指導を行っている。	話したり、書いたりする活動に進んで取り組んでいる。	
			3	ICT機器の効果的な活用	学びを広げるツールとして、文房具や教具と同様に、日常的に子ども達に活用させる。	端末の効果的な活用方法について研修を進め、子供たちに活用させることができたか。	ICTを活用し、子供の学びを広げる工夫をしている。	クロームブックを使った学習は、楽しくわかりやすい。	
		一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた教育活動の推進に努める。	4	基礎・基本の定着（個別の補充指導）	学習内容が理解できない子どもに対し、授業中や授業外の時間に補充的な指導をする。	個に応じた丁寧な個別指導の時間を確保するよう心がけているか。	授業中や授業以外の時間に個別指導をしている。	勉強がわからないときには、先生がわかるまで丁寧に教えてくれる。	
			5	読書活動の推進	図書の時間やCANの読み聞かせ等、読書の時間を活用して子供の関心を高める。	子どもが本に興味を持つような工夫をしているか。	子供たちが読書に親しめるような工夫をしている。	いろいろな本を自分から進んで読んでいる。	お子さんは、読書を楽しみ親しんでいる。
			6	計画的な家庭学習	授業内容の定着、予習的要素などを目的に、児童自ら内容を考え主体的に取り組ませる。	児童が自力でやり遂げられるような内容や分量の宿題を心がけているか。	宿題を児童自身でやり遂げることができるように、内容や方法を考えている。	宿題はきちんとやっている。	お子さんは、家庭学習の習慣を身につけている。
思いやりのある子ども	心の教育の充実	学習や学校生活の基盤となる楽しい学級づくり（集団づくり）に努める。	7	道徳教育の充実	見通しを持って、計画的に道徳の授業を実践する。	資料や指導に工夫を加え、計画的な道徳の授業を毎週行っているか。	思いやりの心や命を大切にする心を育てる指導をしている。	友達のことを、大切にしている。	お子さんに、思いやりの心や命を大切にする心が育っている。
			8	集団づくり 個性の尊重	児童が所属感を持てるような集団づくりを心がけ、一人ひとりの可能性を生かすよう努める。	教師と児童との信頼関係や児童相互のよりよい人間関係を育てる土台となる学級づくりに取り組んだか。	児童の自己肯定感を高める取組の工夫に努めている。	先生は、頑張るとほめてくれたり、はげましてくれる。	8−1 学校は、子供達の教育的ニーズに適切に応えようとしている。 8−2 学校は、基本的生活習慣や集団生活における規範意識を育てている。 8−3 お子さんは、仲間を大切にして良好な関係を築いている。
			9	児童理解	いじめ・不登校の未然防止のため、児童理解を深め、一人一人の心を受け止める。	児童理解を深め、一人一人の心を受け止めるために、児童と向き合う時間を確保したか。	子どもの悩みや相談を積極的に聞き、いじめの早期発見に努めている。	相談をしたとき、先生は話を聞いてくれる。	9−1 教師は、お子さんの努力を認めたり、励ましたりして温かく接している。 9−2 教師は、家庭からの相談に適切に対応している。
健康で明るくしっかり働く子ども	健やかな体の育成	基本的な生活習慣を身につけ、集団生活における規範意識を育む。 体力・気力の増進と健康安全指導の徹底を図る。	10	生涯を通しての健康保持のための教育	個々の能力に応じて自信を持たせるような、楽しく達成感のある授業を行う。	個に応じた目標を設定し、達成のための手立てを仕組んだか。	児童の体力向上において、個に応じた目標を設定し、達成感を持たせられる手立てを仕組んでいる。	運動をするのは楽しい。	お子さんは、進んで体を動かし、健康づくりに努めている。
			11		健康に対する意識や知識を高めるために、養護教諭や栄養教諭と連携して健康教育を進める。	給食指導・学級指導の時間を有効に活用し、養護教諭や栄養教諭と連携し授業を行ったか。	食育・健康教育を計画的に行っている。	健康に気をつけて生活をしている。	学校は、体力の向上や健康・安全教育を適切に行っている。
			12	安心安全な学校	防災・防犯訓練を計画的に実施すると共に、非常時に適切な対応ができるような指導を日常的に行う。	防災・防犯意識を高めるために、学級指導や帰りの会などでの呼びかけをおこなったか。	防災・防犯訓練を生かして、危機管理指導を行っている。	地震や火事、怖い人への対応がわかる。	
信頼される学校		地域社会・家庭との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	13	開かれた学校	様々な便りやホームページの更新、動画配信を通じて学校の教育活動の周知を図る。	各分掌に関連する通知やICTを活用して学校の教育活動を周知する。	各分掌の便りを定期的に発行し、学校の教育活動を知ってもらうための努力をしている。		学校は、お便り発行や参観等を適切に行っている。
			14	家庭・地域との連携	保護者や地域人材を生かした教育の推進を行う。【CAN・千代田荘交流・ほうとう味噌造り・親子読書・校外学習講師等】	保護者や地域の人材を活用し、特色ある教育活動の実現を図ることができたか。	学校として、保護者や地域人材を活用した教育活動の実現を図ったり、教育課程を見直したりすることができている。	家の人や地域の人が学校に来て、教えてもらえる授業は楽しい。	学校は、保護者や地域人材を活用した教育活動を適切に行っている。

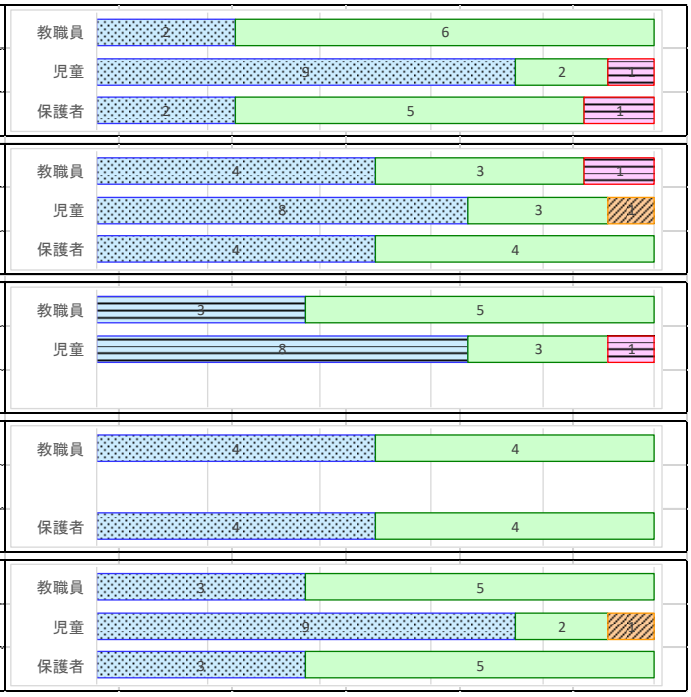
グラフは以下のように示されています。

非常に思う	そう思う	やや思わない	思わない

1	ユニバーサルデザインの視点をふまえたわかる授業	教職員	2	6		
		児童	6	6		
		保護者	5	3		
2	言語活動の充実（主体的･対話的で深い学び）	教職員	2	6		
		児童	8	2	2	
3	ICT機器の効果的な活用	教職員	3	5		
		児童	11	1		
4	基礎･基本の定着(個別の補充指導)	教職員	4	4		
		児童	10	2		
5	読書活動の推進	教職員	3	5		
		児童	8	2	2	
		保護者	5	2	1	
6	計画的な家庭学習	教職員	4	4		
		児童	7	3	2	
		保護者	2	6		
7	道徳教育の充実	教職員	4	4		
		児童	10	2		
		保護者	5	3		
8	集団づくり 個性の尊重	教職員	5	3		
		児童	10	2		
		保護者	4	4		
9	集団づくり 個性の尊重					
		保護者	5	3		
10	集団づくり 個性の尊重					
		保護者	6	2		
11	児童理解	教職員	6	2		
		児童	10	1	1	
		保護者	5	3		
12	児童理解					
		保護者	5	3		



13	生涯を通しての健康保持のための教育	教職員	2	6		
		児童	9	2	1	
		保護者	2	5	1	
14	生涯を通しての健康保持のための教育	教職員	4	3	1	
		児童	8	3		1
		保護者	4	4		
15	安心安全な学校	教職員	3	5		
		児童	8	3	1	
16	開かれた学校	教職員	4	4		
		保護者	4	4		
17	家庭･地域との連携	教職員	3	5		
		児童	9	2		1
		保護者	3	5		



6　改善に向けて

【読書活動の推進】

朝の活動に週２回の読書の時間（15 分）を教育課程に編成し、１年間を通して読書をする時間を確保します。読書の時間はひとり読みが中心になりますが、時期に応じて教師が担任以外の学級で読み聞かせをしたり、児童相互に読み聞かせをしあったりして、読書を全校で一緒に楽しんでいきます。引き続き、ＣＡＮ読み聞かせにもご協力をよろしくお願いします。

【生涯を通しての健康保持のための教育】

来年度は、季節に応じて昼休みを給食終了から５校時開始までの 40 分間設定し、運動を十分にできる時間を確保します。このロング休みでは、与えられたプログラムではなく、児童が自分の過ごし方を自分なりに考えてほしいと願っています。友達と 40 分間めいっぱい体を動かす遊びの時間にしてもいいですし、前半は室内で過ごし後半は外に出てきてもいいですし、自ら目標を立てた体力作りプログラムを実践してもいいと思います。このように主体的に活動させることで、本校が目指す「生涯を通しての健康保持」ができる子どもの育成に努めていきます。

【家庭・地域との連携】

本年度、学校運営協議会設置推進委員会を組織し、委員の方々にご意見をいただきながら地域連携について準備を進めてきました。来年度設置する学校運営協議会を中心に、教育活動や環境整備への支援をいただき、地域と共にある千代田小学校、地域で育つ千代田小児童を目指していきたいと思います。

【子どもと向き合う時間の確保（教員の多忙化解消）】

「授業は楽しくわかりやすい」と多くの児童が感じ、保護者からも良好であるという評価を得ました。教師の本質は授業ですから、この項目で高い評価を得ることができたことは、本当に嬉しいことです。授業参観や学校開放日に参加した保護者からも、「千代田小の先生方は、教材教具の工夫や個に応じた指導に努め、基礎基本の定着を図ってくれている」という感想もいただいています。引き続き、全教師が児童の意欲を高める工夫をし、個々に応じたきめ細かな指導をすることで学力の定着を図り、児童に「わかった」喜びを実感させる授業に取り組んでいきたいと考えています。

また、教師の成果にもあるように、授業研究に費やす時間が十分にできるようになったのは業務改善の成果だと思います。教師の多忙化が今日的な課題になっていますが、子どもと向き合う時間を十分に確保できることや授業の質向上をめざし、本校では教科分担制、教科外指導当番制・ＩＣＴ活用を中心に業務改善を行いました。来年度以降も子どもと向き合う時間確保、授業の質向上のために業務改善を行っていきたいと思います。

□ 以上、本評価の結果を真摯に捉え、今後の指導改善と向上を目指して組織的に取り組んでいきます。

マスクをつけて生活しなければならない生活も、３年目になりました。しかし、このマスクの下はいつも心のスマイルを保ち、笑顔で生活し、明るく学校生活を過ごす児童から、私たち職員は元気をもらいました。 本年度の学校運営の評価をまとめながら、１年間の児童の大きな成長を感じることができたのも、保護者・地域の皆様のおかげです。

毎日の生活の中心は授業です。児童と教職員は１時間１時間の授業を、とても大切に頑張っていました。この１年間、児童にとって本当に大変だったこと、苦労もたくさんあったことも、仲間や見守る大人達（保護者・地域）、支援する教師がいて、一緒に乗り越えられてきたのだと思いました。

地域の方々、保護者の皆様には、本校学校運営にご理解ご協力いただいたこと、児童の成長を支えていただいたことに感謝申し上げます。